

横堤中だより

平成25年12月12日
大阪市立横堤中学校
特別号 No.18

平成25年度「全国学力・学習状況調査」結果の分析と今後の課題

平成25年4月24日(水)、3年生を対象に実施した「全国学力・学習状況調査」の結果を分析し、本校のこれまでの取組の成果と今後の課題について明らかにしましたので、お知らせいたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上をめざしています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。詳しいデータにつきましては、本校ホームページに掲載していますので、ご覧ください。(全国学力・学習状況調査の結果、学校協議会資料)

平均正答率

	国語A	国語B	数学A	数学B
横堤中学校	75.1	63.1	65.6	40.1
大阪市(公立)	72.2	61.0	59.8	37.1
全国(公立)	76.4	67.4	63.7	41.5

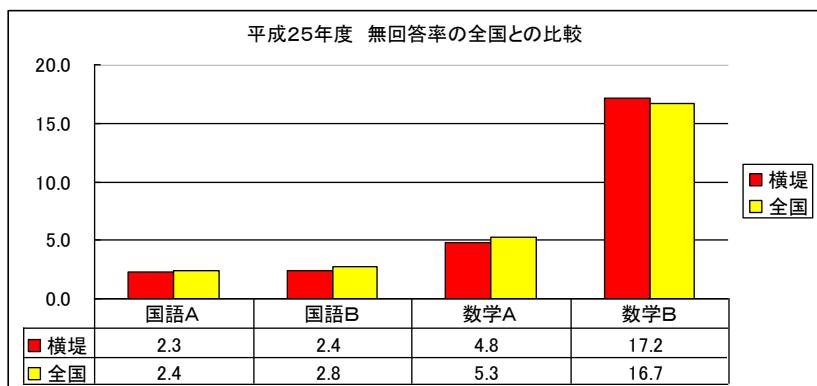
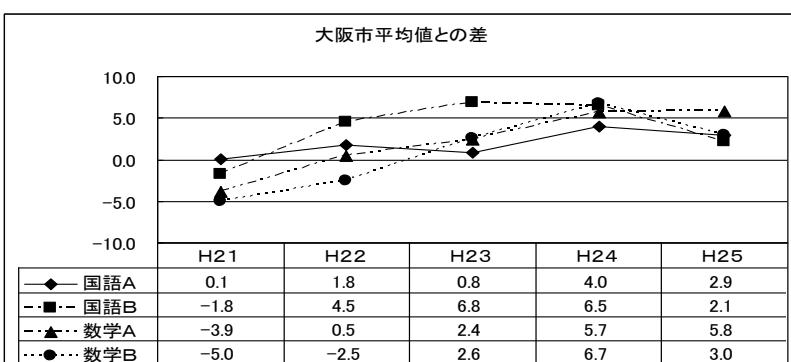
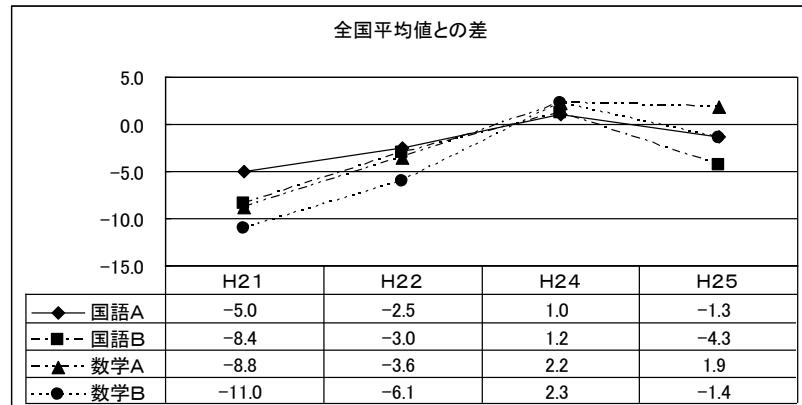
結果の概要

平均正答率において、昨年度は、国語A・Bで1ポイント、数学A・Bで2ポイント以上、全国平均を上回りましたが、今年度は、数学Aで1.9ポイント上回った他は、全国平均を下回りました。

5年前の調査結果と比較すると、国語で4ポイント、数学で10ポイント高くなり、また、平成23年度からは、国語・数学、全てにおいて大阪市平均を上回っており、この5年間で着実に力をつけてきています。

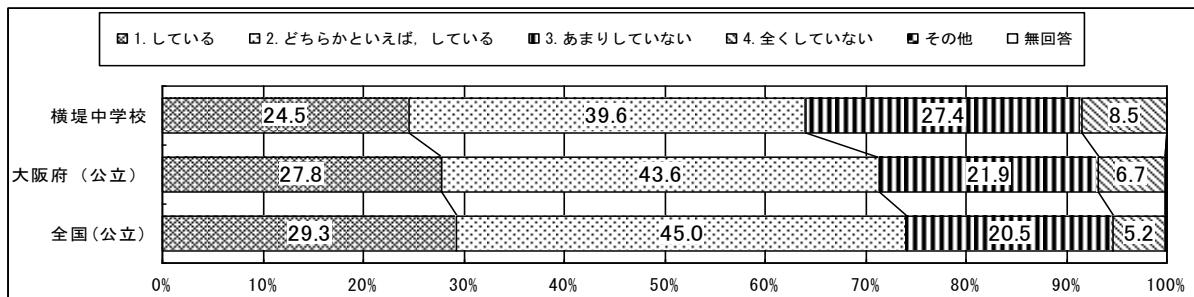
また、平均無答率は、数学Bを除いて全国平均より低く、学習に前向きに取り組もうとする生徒の学習意欲の現れと考えられます。

生徒質問紙調査において、「朝食を毎日食べている」と答えた生徒が、全国平均を13.5ポイント下回るなど、生活習慣に関わる項目で課題が見られました。一方、「自分には良いところがある」と答えた生徒は12.8ポイント、「自分の行動や発言に自身を持っている」は5.1ポイント、「将来の夢や目標を持っている」は7.3ポイント、全国平均を上回り、自尊感情の項目では、高い値を示しました。また、学習習慣の項目では、家庭で宿題、予習、復習をしている生徒は、全国平均を下回っていますが、学習塾で勉強している生徒の割合が高く、影響していることが考えられます。

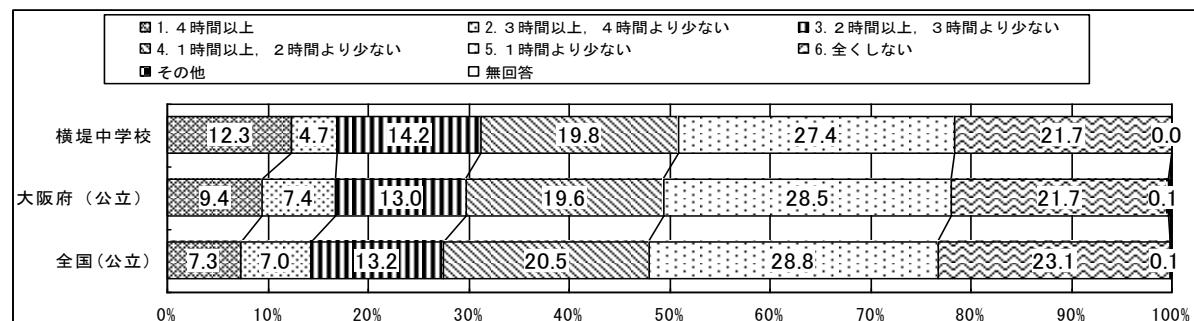


< 課題となる生活習慣・学習習慣（抜粋）>

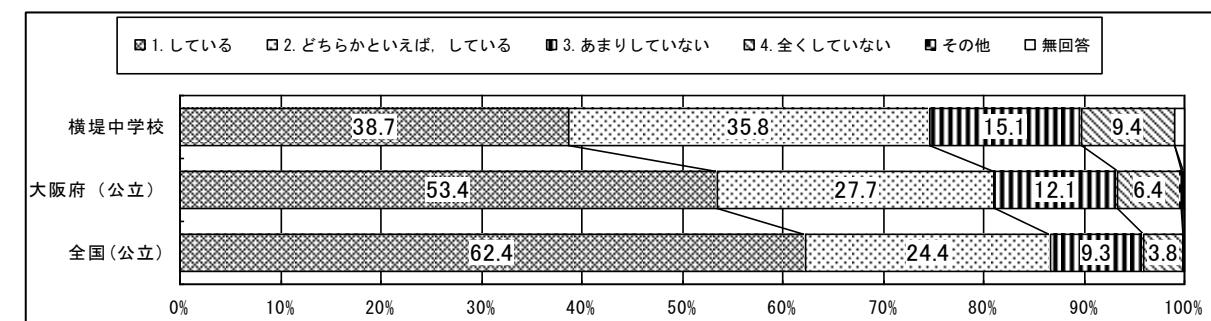
- ・毎日同じくらいの時刻に寝ていますか



- ・普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム含む）をしますか



- ・家で、学校の宿題をしていますか



これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

学習面については、習熟度別少人数授業をはじめ、個々の生徒の課題やつまずきを把握し、学習内容や教材、授業形態を工夫してきたことや、若手教員を中心に研究授業等に取り組んだことにより、徐々にその成果が現れてきています。生活指導面については、教育相談活動を重視し、生徒との個別面談や教員の生徒理解を高める研修、情報交換の機会を多く持つことにより、落ち着いた教育環境づくりに成果をあげています。

本校においては、学力・体力はともに一定の水準に達していますが、生徒一人ひとりが未来の自分を見つめ自立していこうとする力においては課題がありました。今年度の調査結果では、「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合が75.5%となり、道徳教育の充実やキャリア教育、体験的な活動に重点をおいて取り組んできた成果が現れてきたと考えられます。

今後、学習面においては、生徒に考えさせる場面、発表する場面を多く取り入れた授業展開をさらに工夫し、単に計算力や記憶力を問うだけではない「なぜ」や「プロセス」を大切にする授業への改善を図るとともに、ＩＣＴを活用した授業に取り組んでいけるよう研究を進めていきます。

生活指導面においては、今年度より「横堀中学校生徒10カ条」を掲げて取り組んできていますが、来年度も引き続き、基本的生活習慣の改善や夢や目標を持って学習できる教育活動に取り組んでいきます。

また、本校では、保護者・地域と連携した取組が伝統的な取組としてこれまでに定着しており、地域行事に多くの生徒が参加しています。今後は、その基盤の上に、学校元気アップ活動の更なる充実を図り、学習面においても地域・保護者・学校が一体となった体制づくりを進めていきます。